

病院における医療ソーシャルワーカーの 適正配置調査

大阪医療ソーシャルワーカー協会

〒542-0012 大阪市中央区谷町 7 丁目 4-15 大阪府社会福祉会館 1 階

助成事業の概要

患者が治療と生活を両立させ、患者とその家族との人生の質を維持・向上できるように支援する医療ソーシャルワーカーの役割も増しているが、一医療機関に何名の医療ソーシャルワーカーを配置すべきかについての科学的根拠は見当たらない。より適正な人員配置の指標を作ることで、各医療機関で十分な支援が提供できる体制が明らかにできると考え、本調査を計画した。

調査は、まず助成決定後、当協会会員および全国医療ソーシャルワーカー協会会長会に協力を呼びかけ、調査協力者を募った。結果、13 都府県より、のべ 1,168 名の参加を得て、2015 年 5 月～2016 年 2 月の毎月、所定の調査日を基準に調査を実施することができた。

調査票は、A4・2 ページで構成し、調査日の業務をもとに実施内容・時間数を記載するもので、調査日に合わせて参加者へ送付し、郵送にて返送していただく方法を用いた。

事業の成果

のべ 1162 名の参加を得て、うち回収 595 通 (49.8%) だった。うち未記入分多数のものを除く 582 通を用いて分析を行った。回答者のプロフィールは、病床規模：200 床未満 121 名 (21.3%)、200 床以上～350 床未満 210 名 (37.0%)、350 床以上～500 床未満 90 名 (15.9%)、500 床以上 146 名 (25.7%)、無回答=15 名 / MSW 一人あたり病床数：

80.56±61.68 床 / 調査日前月における MSW 一人あたり相談件数：118.5±68.92 件 / 調査日の労働時間：9 時間 6 分 ±1 時間 22 分であった。

業務量を測る項目として、業務自己評価・労働時間・相談件数を用いた。業務自己評価は 7 段階尺度 10 項目を作成し、因子分析により得られた解である負担感・達成感の 2 つを用いた。これら業務量にかかる変数を目的変数として、「勤務者比率」「MSN1 名あたりの入院病床数」「対応したクライアントの実人数」「新規相談件数」「各業務の合計時間」「各業務の合計回数」を独立変数として重回帰分析を行った。いずれの目的変数においても実質科学的に優位な結果は得られなかった。ただし、「達成感」については「労働時間」「新規ケース数」「面接」「カンファレンス」「記録作成」「SW 部門内のミーティング」、「負担感」については「労働時間」「対応したクライアントの実人数」「面接」「カンファレンス」「会議」「実習生指導」が統計的有意差を認めており、これらの変数が業務量に関連していることが推測された。他に、労働時間では、「一人あたりの病床数」「新規相談件数」が、さらに各業務の所要時間のうち「面接」「文書資料作成」「記録作成」「会議出席」が相対的に大きめの影響を与えており、労働時間の長短に影響しているものと推測された。

「MSN1 名あたり相談件数」について、「前月の状況」による差異を検討したところ、「普段より忙しい」と「普段より余裕あり」との間でのみ統計的有意差を認めた。

また、対応したクライアントの実人数・労働時間について、「曜日」による有意な差は認められ

なかった。

への参加の意義を医療ソーシャルワーカーへ理解してもらうきっかけにもしていきたい。

■ 成果の広報・公表

作成中の報告書（簡易版）については、調査と分析結果の概要を収載していき、当協会の年報にあたる平成 27 年度版広報誌特別版に掲載したうえで、会員・全国の医療ソーシャルワーカー協会はじめ、大阪府の担当課、大阪府下の医師会・病院協会などの関係団体に送付していく予定である（平成 27 年度版広報誌特別版は年内刊行予定）。また、調査の全容を紹介する最終報告書は PDF ファイルにて当協会ホームページにアップし、広く活用いただけるようにしたい。

また、今後、日本医療社会福祉学会・日本医療社会福祉協会全国大会など関連学会へ演題として発表を申請する予定である。さらに、学会誌などへの報告も行い、広く成果の共有を進めていきたいと考えている。

■ 今後の展開

「成果の広報・公表」で示したように、まずは成果の公表を進めていきたい。その過程で、広く研究者や現場の医療ソーシャルワーカーとの意見交換を行い、研究成果の裏付けについて検証するとともに、今回の調査の限界を克服する手がかりを得るようにしたい。

あわせて、得られたデータを有効活用すべく、研究者の協力も得て可能な範囲で再分析、また他の要因も含めての二次・三次調査も行い、適正調査の指標の確立を進めていければと考えている。それにより、単なる配置基準だけでなく、私ども医療ソーシャルワーカーの業務の現状把握、業務改善につなげて、より良い支援につなげることを最終目標とするとともに、予定の参加者・回収率ともに見込みを下回った反省から、この種の調査